

平成27年度 水俣第一中学校 環境 ISO の取組について

Plan

何を指すのか？

※ゴミケとは…？

ゴミ+コミュニケーション=コミュニケーション

地域活性化やもやい直しにすすんで参加し、地域のつながりをより深くしようとする力をつける目的と生徒自らゴミの高度分別の判断ができ、将来、環境保全のリーダーとして活躍できるようになる目的において、毎月、自分の地区のゴミ収集場に行き、ゴミの分別活動を地域の方と行っています。

1. 前年度の反省と課題

●コミュニケーションへの参加率について

→ただゴミケに参加するのではなく、「なぜゴミケをするのか」という意義を確認する必要がある。

●環境についての意識の向上

→環境に配慮したエコ校舎を使用して、一中に学ぶ意識を高める必要がある。

→環境首都水俣としての環境についての意識を高める必要がある。

●宣言項目の見直しの必要性

→宣言文を見直し、実行がしやすく、チェックもしやすいように変更する必要がある。

2. 環境 ISO 宣言

生徒宣言文

○コミュニケーション活動に積極的に参加し、参加率 90%以上を達成します。地域の方とコミュニケーションを取りながら、正しくゴミを分別します。

→地域の人と人をつなぐためのあいさつや会話を意識するために変更

○容器包装プラスチックを各クラスでも正確に分別することで、燃やすものをできるだけ出さないようにし、CO₂ 排出削減につとめます。

→具体的に容器包装プラスチックとプラスチックを設定し、ゴミの収集時に間違っていないかを確認するために変更

○晴れた昼間は、使用する照明の本数を判断して節電します。(室内の明るさに応じて)

→生徒自身が判断して、照明の本数が判断できているので、継続

○コップを使った歯みがき、バケツを使った清掃、雨水タンクを利用して節水します。

→昨年は1杯ずつとしていたが、実際の活動との隔たりがあったので、きちんと遵守でき活動可能になるように変更

○家庭での資源の有効利用と分別、効率的な冷暖房の工夫、節電・節水に努めます。

→家庭での環境 ISO を意識する必要があるために継続

教師宣言文

○裏紙の印刷利用で紙の消費を印刷機、プリンターの両方で抑えます。印刷用紙の使用量を前年度の数値から 2.5%削減します。

○室温により冷暖房を管理し、冷房は 28℃、暖房は 20℃に設定します。電気使用量を前年度の数値を維持し、灯油使用量を抑えて、CO₂ 排出削減に努めます。

○紙類を分別し、資源としてリサイクルに努め、できる限り捨てません。

○環境を意識した美化作業・清掃活動の指導に努めます。

○家庭での資源の有効利用と分別、効率的な冷暖房の工夫、節電・節水に努めます。

3月の環境 ISO 委員会で、26年度の反省や課題を生徒たちが出し合い、27年度に実行していきたい内容をまとめました。それを受けて、27年度の4月に環境 ISO 委員長が主体となって ISO 宣言文を作成し、さらに、職員会議で職員の意見も取り入れました。

もやい直しと環境について意識すること、「もったいないの心」を育てることを学校全体として取り組もうと意識し、今年度の環境 ISO の方針が固まりました。

そして、生徒総会で承認を受け、全校生徒での活動をスタートさせました。

Do

学校教育全体を通して、幅広い活動を！ 環境首都水俣の市民としての誇りを！

1. 活動の基点 ～活動について学び、実践力をつける～

○水俣科オリエンテーション



本校では、毎月1回の土曜授業において、総合的な学習の時間を主として「水俣科」を設定しています。そこで、新たな取り組みとして4月にオリエンテーションを行いました。各学年での目標を、1年生「環境と食」、2年生「環境と職」、3年生「環境と進路」と設定して、取り組みを進めています。「なぜ全ての学習で環境について考えるのか？」を理解した上で、活動しました。

○ゴミケの意義

以前よりコミュニケーションを行ってきた本校ですが、昨年の反省で、「なぜゴミケをおこなっているのだろう」という意識が生徒の中に見られないという反省がありました。また、新しく来た先生方もゴミケについてよく知らないという現状もありました。そこで、ゴミケの意義についてまとめて先生方に知ってもらい、ゴミケの場所の確認を行う第1回地区生徒会で話してもらいました。ごみの分別収集の始まりや中学生が参加するようになった歴史、活動を通しての目指す生徒像、教師像、地域の人々の期待を再確認できました。

○校舎の使い方について



本校は、エコ改修が行われ、環境に配慮した校舎となっています。それにより、通常とは違った設備が数多くあります。季節によって、この設備の使い方も変わってくるので、環境ISO委員長や保健委員長から環境に優しく、快適に過ごせるのかを全校

生徒に知らせます。パンフレットや生徒集会でスライドを使って説明し、全生徒が正しい使い方を知ることによって、家庭でも環境に配慮した屋内の過ごし方を自然に学習することができます。

○高度分別について



水俣市は、ゴミを21種類に分別して収集しています。中学1年生を対象に、清掃業者に来て頂き具体的な分別の方法を学習しました。小学校でも学習はしていますが、今年度から水俣市の分別の仕方が変更になったこともあり、改めて具体的な分別の仕方を学びました。生きピンと雑ピンの分け方や回収方法の違いなどを詳しく学んだことで、ゴミケでも迷いなく分けることができるようになっていました。また、校内での分別についても、分けることが難しい容器包装プラスチックを見分けられるようになっていました。

2. 日常的活動

○コミュニケーション活動



本校では、地域のゴミ分別収集活動に以前から参加しています。部活や諸活動よりも優先して行い、各担当の職員も参加しています。今年度は地域の方との触れ合いにも注目し、あいさつに力を入れていこうと生徒会執行部より呼びかけています。

地域や収集場所ごとに活動開始時間や人数が違うので、昼休みに体育館に集合し、班長が時間や人数の確認を行って、放課後に地域へ行き活動しています。市外からの転入等でゴミ分別不慣れな方が、中学生の分別の姿から、水俣市の高度分別の仕方を学んでいくこともあるようです。

○校内での分別

校内でも、燃やすゴミと容器包装プラスチックを分別し、ゴミの減量を目指しています。パンの袋や、ティッシュの袋等を各生徒が判断して分別をして入れています。ゴミの袋もゴミ捨て場に持って行き、なるべく一つにまとめるようにしています。



○節電・節水・節紙

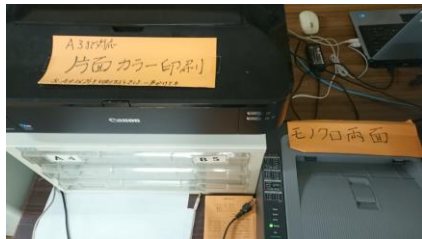


「もったいないの心」の精神で、各生徒が判断して学校生活を過ごしています。

必要のない照明は、生徒自らが判断して消す習慣ができています。エコ校舎により窓が大きくなり、採光しやすい教室なので、晴れた昼間は基本的に窓側の照明を消すようにしています。

節水についても、コップ 1 杯・バケツ 1 杯という宣言から変更していますが、コップを使って歯みがきをしたり、バケツを使った清掃が自然にできています。

紙ゴミも不要なプリントを印刷しないよう印刷ごとにプリンターを変えたり、裏紙を利用しています。



3. 校舎を活用した環境学習

○明るい教室内で照明は必要なのか？

エコ校舎では、窓が大きくなりました。そこで、左の写真のように帽子を被り、直接照明を見ずに、3 列ある照明のどこがついているのかを実験してみました。明るさの違いが窓側ではわからず、右の写真のように照度計で明るさを測定してみると教室が必要以上に明るいことがわかりました。「もったいない」ことが実験を通して学習できました。

帽子を被り、照明を当てる実験↓



↑照度計で実際の明るさを測定

○エアコンは必要なのか？



断熱材の効果を調べるため、断熱材入りの教室と断熱材なしの教室の壁や窓の温度を測定し、色分けして比較する実験を行いました。左の写真のように放射温度計で測定した温度を記録して、サーモグラフィーとして図面に色分けして効果を確認しました。「夏は外気を入れずに、朝の冷気を閉じ込める。」「冬は、暖かい空気を外に逃がさない」と学習できました。

4. 水俣に学ぶ

○海・山・川学校～地域の人といっしょに、水俣の自然に触れる～



2 年生では、「水の流れ」に沿って、実際に山、川、海に出かけて水俣の自然に触れ、どのように人が、水を大切にしながら付き合っているのかを体験しました。各場所では、NPO「植物資源の力」、漁協、地域の方に協力して頂き、詳しく水俣の自然と水について知ることができました。山では木の保水機能や光合成の実験、川では上・中・下流に分かれて、流域特有の水の活用やきれいに保つ方法、海では、海中にいる生物の観察や漁協による海の漁場の再生活動について学習しました。

Check

継続的記録と、改善に向けて



ゴミケの後には班長が、チェックしたシートを回収し、環境 ISO 委員が Excel を使って集計し、一番目立つ場所の掲示板にグラフとして結果を残しています。今年からコメントを書き入れ、さらなる向上を目指すようにしました。

ゴミケの項目は、別集計しているの削除

容器包装プラスチックからパンの袋などの具体的な表記に変更

平成26年度	平成27年度	環境ISOチェック	5月	6月
ゴミケ活動に参加し、地域の方とコミュニケーションを取りながら、正しくゴミを分別できた。	パンの袋などの容器包装プラスチックを廃プラのゴミ箱に間違えずに入れた。		2	3
容器包装プラスチックを分別できた。	【環境ISO委員が確認】 集めた量も、使用する頻数の本数を把握して削減できた。		2	2
不要なプリントの裏面も有効利用し、リサイクルできる状態まで分別できた。	コップを使った飲みがき、バケツを使った清掃ができた。		1	2
集めた量も、使用する頻数の本数を把握して削減できた。	家庭でも、節電や節水などの環境に優しい生活を1回でもできました。		3	2
コップ1杯での飲みがき、バケツ1杯での清掃、雨水タンクを利用して節水できた。	合計		6/12	9/12
家庭での資源の有効利用と分別、効果的な清掃の工夫、節電・節水に努めた。	平均		2	7
	原簿でチェックを行う		4/12	4/12
	原簿でチェックを行う		4/12	4/12

3段階から4段階評価へ変更し、さらに詳しく分析できるように



昨年度は、各クラスによってチェック体制が甘かったり、意識の低いクラスの点数が高かったりしたことや、ゴミケチェックで聞いたりしている箇所があったので、内容を精査し、具体的な質問にして、精度を高めました。

Action

年度内でも改善を！

今年度の成果として、新たに活動の基点となる学びを増やしたことで、生徒の意識が変わったことが挙げられます。また、校舎を使った環境学習によって、家庭での環境意識の高まりも生徒たちの会話から実感できました。

課題としては、6月にゴミケの参加率が急激に落ち込んでしまいました。原因として行事と重なった地区の参加率の低下が考えられます。そこで、給食時に放送し、環境 ISO 委員がクラスの誰が参加するのかを知ることで、お互いに声かけをする姿が見られ、参加率も上昇することができました。しかし、さらに参加率を上げるため、各クラスで年間カレンダーの掲示を工夫したり、週行事にゴミケがある日の掲示をしてもらっています。他にも、生徒指導と美の部分で環境に意識を向けさせる目標を考えてもらい、学校教育全体で ISO 活動を改善していきたいと思います。他にも、保健委員会や整美委員会と連携した取組も考えています。

クラスでの取組

生徒指導との連携